



研究領域名 現代文明の基層としての古代西アジア文明  
—文明の衝突論を克服するために—

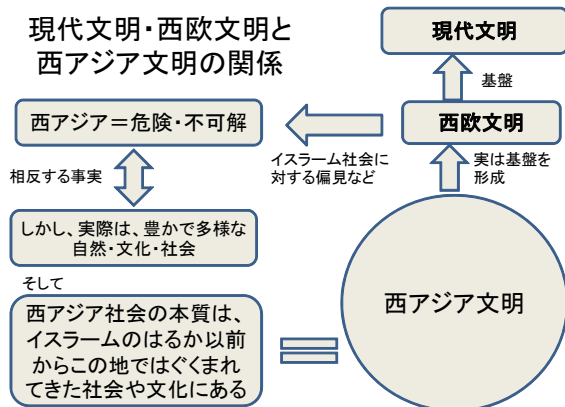
筑波大学・人文社会系・教授

つね き あきら  
常 木 晃

【本領域の目的】

イスラームのはるか以前から存在してきた西アジア文明は、ムギ作農耕や冶金術、都市社会、キリスト教など、日常の基幹食糧から技術革新、社会システム、精神生活に至るまで、現代社会の根幹を準備した極めて重要な文明でした。本領域では、古代西アジア地域がどのようにして人類史の中でも最重要となる一連の転換を成し得たのか、西アジア文明の際立った特徴である先進性と普遍性に着目してそれをもたらした要件を解明します。西アジア文明が達成した歴史プロセスを人文科学・自然科学からの多様な研究で解きほぐすことによって、「文明の衝突論」を乗り越え、西アジア文明を基盤とした深い相互理解に基づく新たな現代文明像を構築したいと強く願っています。

現代文明・西欧文明と西アジア文明の関係

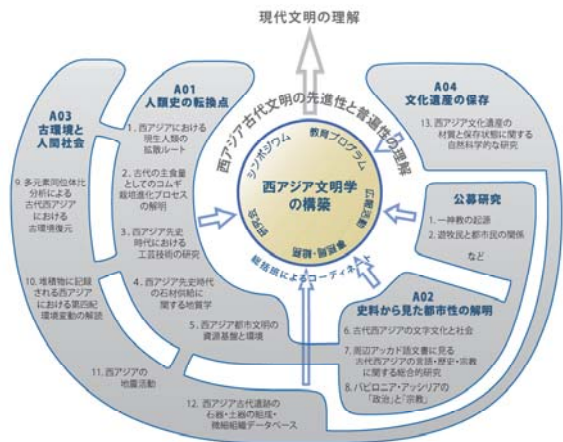


西アジア文明の理解は、現代社会の根幹を正しく理解し、相互理解を深化するために、きわめて重要かつ必須の課題

【本領域の内容】

本領域にはA01「人類史の転換点」、A02「史料から見た都市性」、A03「古環境と人間社会」、A04「文化遺産の保存」の4つの研究項目を設けます。A01、A02では、西アジア文明の特質である先進性と普遍性をもたらした歴史プロセスの形成と発展を探ります。先進性とは、史上最も早くそのイベントや転換が生じたことを指し、普遍性とはイベントや転換がその地域で収束せず世界的規模に拡散、展開したことを指します。公募研究は、計画研究班では包括できていないテーマについて計画研究班と協力して研究を進めます。A03に所属する計画研究は、これら人類史の転換点となったテーマの解明を背後から支援するとともに、西アジアの人間社会の歴史と自然環境との関連を体系づけていきます。自然環境が西アジア文明の特質を準備する重要な要素になっていたと考えるか

らです。また、本領域のフィールドである西アジア諸国から研究資料を得るばかりでなく、研究成果を還元しその社会に貢献するために、文化財の保存を担うA04を設けました。



本領域の研究体制

【期待される成果と意義】

実際のフィールド調査を通じて、古代西アジア文明が達成しかつ現代文明にとっても最も重要な人類史上の転換点の解明に当たり、環境科学分野などとの協同作業で、新たな視点から個々のイベント・転換点の研究が深化します。それと同時に、本領域ではこれらのイベント・転換点を連鎖する一連の歴史プロセスと捉え、全体に共通しかつ継続する要素が探索されます。つまり、ダイナミックな有機体として西アジア文明を突き動かしていった原動力の探索です。この探索を中心課題として、西アジア文明学という新しい研究領域の創成を図り、これまでの理解とは大きく異なる、豊かで多様な西アジア地域像の構築を目指します。本領域の発展により、我が国で初めて西アジア文明を専門的に研究する拠点が誕生します。

【キーワード】

西アジア文明：主に紀元前 10,000 年～前 1,000 年紀の約 10,000 年間に西アジア地域で達成され、現代文明にまで大きな影響を与えた諸文化の総体。

【研究期間と研究経費】

平成24年度～28年度  
349,500千円

【ホームページ等】

<http://rcwasia.hass.tsukuba.ac.jp/kaken/index.html>